

# 分析結果報告書〔3〕1/3

## 1. 3 模擬排水試料 (TOC)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得 (複数回答可)	1. ISO 9001~9003      2. ISO/IEC 17025(ガイド25)      3. MLAP 4. (上記1~3を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者 氏名	( )
経験年数 (年)	( ) 年
実績 (年間の分析試料数)	( )
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり      2. なし

### <分析結果>

1回目(mg/L) 注1~3)	( ) mg/L
2回目(mg/L) 注1~3)	( ) mg/L
3回目(mg/L) 注1~3)	( ) mg/L
Z-スコアの報告書資料編への記載 注4)	1. 希望する    2. 希望しない

注1) 本調査においては、下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。

注2) 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、NDと記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧()をつけ JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。

注4) 分析結果を報告した機関が20に満たない際は、Z-スコアの報告書資料編への記載を行わない場合がある。

### <分析方法等>

試料受取日	( )
分析開始までの試料保存日数 (日)	( ) 日
分析日数 (日)	( ) 日
分析方法	1. TOC分析法(JIS K 0102-1の19.2に該当) 2. TOC分析法(JIS K 0102の22.1に該当) 3. TOC自動計測法(JIS K 0102-1の19.3に該当) 4. TOC自動計測法(JIS K 0102の22.2に該当) 5. その他( )
分析方法 (原理1)	1. 全炭素と無機体炭素をそれぞれ測定し、全炭素から無機体炭素を差し引き有機体炭素(TOC)を算出する方法。 2. 試料中から無機体炭素を除去した後、有機体炭素(TOC)を測定する方法。 3. その他( )
分析方法 (原理2) 酸化の方式(二酸化炭素とする方式)	1. 燃焼酸化法    2. 高温湿式酸化法    3. 紫外線酸化法    4. 光触媒酸化法 5. その他( )
分析方法 (原理3) 二酸化炭素の定量	1. 赤外線分析法    2. ガス透過膜式熱伝導率測定法 3. その他( )
使用した水	1. 蒸留水    2. イオン交換水    3. 超純水    4. その他( )

### <測定>

TOC計    メーカー 型式	1. 島津製作所    2. アナリテックイエナジヤパン    3. 平沼産業 4. その他( ) ( )
全炭素の測定    注1) 試料の希釈倍率    注2) 試料の注入量 (μL)	( ) ( ) μL
無機体炭素の測定    注1) 試料の希釈倍率    注2) 試料の注入量 (μL)	( ) ( ) μL
有機体炭素の測定    注3) 無機体炭素の除去方法 試料の希釈倍率    注2) 試料の注入量 (μL)	1. 酸を加えて通気(ばっ気)    2. その他( ) ( ) ( ) μL

注1) 全炭素と無機体炭素を測定して、計算により有機体炭素(TOC)を求めた場合には、全炭素と無機体炭素の欄に記入し、有機体炭素の欄は記入しない。

注2) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

注3) 無機体炭素を除去した後に有機体炭素(TOC)を測定した場合には、有機体炭素の欄に記入し、全炭素と無機体炭素の欄は記入しない。

# 分析結果報告書〔3〕 2/3

## <標準液>

標準液メーカー名	( )
使用時の濃度保証	1. 保証期間内 2. 保証期間超過
ファクター	( )
Lot番号	( )

## <検出下限値>

全炭素 注1)	( ) mg/L
無機体炭素 注1)	( ) mg/L
有機体炭素 注2)	( ) mg/L

注1) 全炭素と無機体炭素を測定した場合（計算により有機体炭素（TOC）を求めた場合）に記入する。

注2) 無機体炭素を除去した後、有機体炭素（TOC）を測定した場合に記入する。

## <試料の保存状況>

保存方法	1. 冷暗所保存 2. 保存しない（直ちに分析） 3. その他（ ）
試料の保存処理	1. 行った その方法（ ） 2. 行っていない
保存温度（℃）	約（ ）℃

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--

## <検量線（全炭素及び無機体炭素）注1）>

単位 注2)		1. mg/mL	2. mg/L	3. その他（ ）	
検量線		全炭素		無機体炭素	
		濃度 注3)	応答値	濃度 注3)	応答値
検量線標準液 (1を最低濃度とし、番号順に高濃度とする)	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
空試験 注4)		—		—	
共通試料1回目 注5)		—		—	
共通試料2回目 注5)		—		—	
共通試料3回目 注5)		—		—	

注1) 全炭素と無機体炭素を測定した場合（計算により有機体炭素（TOC）を求めた場合）に記入する。

注2) 検量線用標準液の濃度の単位は、JIS K 0102 ではmg/mL、JIS K 0102-1 ではmg/Lとなっている。いずれの単位を採用した場合も、計算間違いに注意すること。

注3) 検量線標準液の濃度を記入する。

注4) 標準添加法では記入しない。

注5) 標準添加法では添加のない試料の値を示す

# 分析結果報告書〔3〕 3/3

＜検量線（有機体炭素）注1）＞

単位 注2)		1. mg/mL 2. mg/L 3. その他 ( )	
検量線		有機体炭素	
		濃度 注3)	応答値
検量線標準液 (1を最低濃度とし、番号順に高濃度とする)	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
空試験 注4)		—	
共通試料1回目 注5)		—	
共通試料2回目 注5)		—	
共通試料3回目 注5)		—	

注1) 無機体炭素を除去した後、有機体炭素（TOC）を測定した場合に記入する。

注2) 検量線用標準液の濃度の単位は、JIS K 0102 ではmg/mL、JIS K 0102-1 ではmg/L となっている。いずれの単位を採用した場合も、計算間違いに注意すること。

注3) 検量線標準液の濃度を記入する。

注4) 標準添加法では記入しない。

注5) 標準添加法では添加のない試料の値を示す